

# 雨の日にとある男 と囲碁を

碁盤の目のように張り巡らされた道路が

いくつもの交差点をつくる街に住んでいた

20代前半から後半にかけてくらい。

それはそうと

・・・とある雨の日

真っ白い作務着を着た細いお坊さんと

囲碁をした。

「なるほど・・・・・・・・・・そうくるか」

お坊さんは顎の少し上あたりに手を当てて

10分ほど熟考した後

常識を覆すような前代未聞の手を打った。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございます。  
した。